

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年一月度 入選句（投稿総数三千百五十五句・一般投句数五百三十八句）

特選

布団干し類 寄せ仕舞ふ日の匂ひ 愛知県額田郡 平松 京師

真偽の程は分からぬが、昔から布団で寝ると一晩で盃一杯分の水分が出ると云はれ、布団に水分が含まれるので、布団を太陽光線に当てる布団干しをする習慣が有る。晴天の日午前十時頃より午後三時頃迄干すと、布団の余分な水分が抜け健康にいいと云はれて居り、取込む時類に触れ太陽の匂ひも嗅ぐ事が出来る満足感をよまれた良い句です。中句が特に良いと思はれます。

子は期待親は苦渋のお年玉 加茂郡八百津町 古川 恣

お年玉は正月の贈物のことで、目上の者から目下の者に贈るものをいい、本来は正月に家族の一人一人のためこしらえた餅をいい、その後子供たちの喜ぶ玩具となり、さらに転化してお金などに変化したもので、年末親の古里へ家族で行く子供のインタビューでもお年玉を期待してゐる子が多い。子供さんはお正月はお年玉を貰えるのを楽しみにしてゐる。親は世間相場もあり苦渋の面も有る様子を上手に句になされて居り、微笑み乍らよませて頂きました。

返信の投函急ぐ賀状かな 千葉県千葉市 箕輪 恵一

去年来なかつたので出さなかつた方、新しい団体に加しまだ今年は出さなくても思つた方から元旦に賀状が届いた。早速郵便局本局に行く。毎年の事乍ら局周辺の車道は車がいつぱい、近辺は多くの人で大変な活気、局内も年賀状を求める人返し年賀の投函に来る人で満員。家へ戻つて急いで賀状を作り投函なされた、正月早々の返信年賀状投函の様子をよくよまれたいい句です。

秀逸

七曜を忘るる暮し冬座敷 養老郡養老町 田中 秀子

玄関に春待つ幼なの三輪車 大垣市 田中 千代

学童の声にぎやかに霜の朝 大垣市 松永 勝二

鳥の巢を大事に抱き冬木立 大垣市 末守 節子

行く先を風に預けて草の架 大垣市 島岡 嘉明

餅つきや用無き婆もうすの辺に 大垣市 今津 絹代

搗きたては赤子のごとし餅の肌 不破郡垂井町 児玉 信子

大社殿静寂を破る冬太鼓 不破郡垂井町 高木 紫雲

初売りの袋いくつも若きママ 大垣市 川瀬 喜梅古

吾よりも妻に多くの年賀状 兵庫県神戸市 紫 桔梗

入選

一滴に一音庭の秋深む
 田仕舞や嫗一人藁拾ふ
 老いの夢あれこれ想ふ年始め
 日記繰る余情の数多師走かな
 輔祭阿吽の槌に飛ぶ火花
 祢宜と巫女ほうき納めて年の暮
 祖母紡ぎ母が機織る冬の音
 着ぶくれや老いたる我に見栄もなく
 賀状受く友の達筆変りなく
 しめ縄に遊ぶ小雀ご来光

養老郡養老町 田中 秀子
 大垣市 奥田 和子
 愛知県愛西市 杉浦 善彦
 大垣市 仁村 光生
 不破郡垂井町 久保田 紘義
 大垣市 平野 きぬよ
 大垣市 安田 むっこ
 大垣市 鶴田 信子
 安八郡神戸町 高橋 日出美
 京都府宇治市 古根 洋子

入選

冬の朝紙面で知った師の訃報
 己が顔変はることなき初鏡
 枯れ果てて名札ばかりの薬草園
 後ひと日残して捨てる古曆
 抱き廻す嬰の欠伸に初笑ひ
 枅酒に杉の香ほのとお正月
 一言の添書き嬉し年賀状
 今はただ耐へて冬芽のありにけり
 荒海に大漁旗や鱒興し
 冬ざれや灯のまた消ゆる老舗宿

京都府宇治市 椎原 園美
 大垣市 宮脇 和子
 大垣市 村田 通夫
 大垣市 岡田 あや子
 大垣市 早崎 美弥子
 大垣市 島岡 嘉明
 兵庫県神戸市 紫 桔梗
 愛知県豊田市 城山 憲三
 石川県能美郡 松田 文女
 神奈川県横浜市 龍野 ひろし

選者吟

放水を川へ空へと出初式

庄一郎